

総合研究奨励賞 (結城賞)



喜多 雅英

略 歴

平成12年3月 藤田保健衛生大学(現 藤田医科大学)医学部医学科卒業
平成12年4月 岡山大学病院 第一内科(現 消化器内科)入局
平成12年10月 岩国医療センター 初期臨床研修医
平成15年4月 西条中央病院 内科
平成16年4月 亀田メディカルセンター 消化器内科(シニアレジデント)
平成19年4月 岡山大学病院 消化器内科 医員
平成24年6月 岡山大学病院 消化器内科 助教
平成28年4月 岡山市立市民病院 消化器内科 医長
平成30年4月 岡山市立市民病院 消化器内科 主任医長
現在に至る

研究論文内容要旨

Kita M, Yokota K, Kageyama C, Take S, Goto K, Kawahara Y, Matsushita O, Okada H. *Oncotarget*. 2018; 26; 9 (22): 15828-15835

岡山市立市民病院 消化器内科 喜多雅英

ピロリ菌感染により慢性胃炎が引き起こされ、全身性免疫反応に影響を及ぼすことがわかっている。しかしながら、免疫細胞と胃内細菌との間の直接的な関連性はまだ報告されていない。

本研究はヒト胃粘膜におけるピロリ菌のDEC205による貪食作用とDEC205陽性マクロファージの役割を調べた。培養細胞を使った実験において、DEC205が菌の細胞表面蛋白を認識して貪食し、DEC205抗体で阻害ができることが判明した。またピロリ菌感染胃粘膜ではDEC205とCD14を発現したマクロファージが上皮細胞間に多数浸潤していることが判明し、末梢血中のリンパ球でも、感染しているヒトはDEC205の発現が増加していることを突き止めた。

これらの知見は、DEC205を発現するマクロファージが全身性免疫に影響を与えるヒト胃粘膜におけるピロリ菌の認識において重要な役割を演じていることを示唆している。